1章　リニューアルの背景

（1）こどもたちを取り巻く環境

① 変化する家庭環境と地域社会
－少子化と共働き世帯の増加、地域交流の希薄化－

② 気候変動とこどもの健康・安全
－天候に左右されない屋内の安全な遊び場が求められる－

③ 「こども基本法」に基づく新たな児童館の在り方
－こどもの権利を尊重し、主体的に参加できる場へ－

④ こどもたちの意見に基づく「わくわく」
－こどもたちの声を反映した施設やプログラムづくり－

（2）群馬県における施策

①「新・群馬県総合計画」

- 「始動人」群馬の教育が理想とする個性
- 子どもの居場所づくりの推進
- 子どもたちの自立に向けた基礎づくり
- スポーツによる地域創生
- アートを活用した地域振興
- 「群馬の環境を生かした教育」×「デジタルを活用した新しい教育」

②「ぐんまこどもビジョン2025」

基本方針３　心身の健やかな成長と自己肯定感を高めるための環境を整える【学童期・思春期】
基本目標(2)　多様な居場所づくり
基本施策①　こども・若者の視点に立った居場所づくり
ア）児童館等の運営と施設整備

（3）本施設が抱える課題

① 施設・設備の老朽化
② 展示の老朽化・更新の必要性
③ プラネタリウムの老朽化・運営負荷
④ 雨天時・猛暑時に過ごせる場の不足
⑤ 公園連携の必要性
⑥ こどもたちの活動や発表の場の不足
⑦ 情報発信の強化

（4）こどもたちの遊びについてのニーズ

- 非日常的な体験ができるユニークな遊具
- 球技などのスポーツや身体を思い切り動かして遊べる場所
- 自分で遊びを発展させる余地のある場所
- 多様な創作活動ができるアトリエやスタジオ
- 自然に関する遊び
- 普段は体験できない浮遊感のある場所や遊び　等

児童会館のリニューアルが必要

2章　リニューアルの基本的な考え方

＜リニューアルの方向性＞

「わくわく」できる空間を、こども自身が創造する施設へ

＜リニューアルの基本方針＞

① **来館のきっかけとなる「シンボル」の創造**　－群馬県内にあることを生かした遊びの拠点－
② **全てのこどもがわくわくできる遊びの空間の創出**　－身体や五感を使った体験型の遊びやアートを活用した遊び－
③ **こどもの声を反映し、こども自身が中心となって運営していく施設**　－こどもたちが児童館運営に参加する仕組みを構築－
④ **公園との遊びの連携**　－館内と公園でつながりを持たせた遊びのプログラムを創出－

＜リニューアルのコンセプト＞

ぐんま わくわくリンク！　みんなで わくわく しよう

① 自分の中の「わくわく」がつながる！

- 様々な出会いやきっかけを通して、こどもたち自身が「わくわく」を見つけられる。（好奇心）
- 好き、やってみたいという気持ちにそって、思いきりチャレンジできる。（探究心）
- 「わくわく」がこどもたちの成長とともに形を変え、長く通いたくなる居場所になる。（成長）

② いろいろな人と「わくわく」がつながる！

- 遊びを通して、年齢や背景を超えた様々な交流が生まれ、一緒に楽しむことができる。（コミュニケーション）
- こどもたちの作品や遊びのアイデアが、他のこどもたちのヒントや刺激になって「わくわく」が連鎖する。（自己表現）
- 大人たちも一緒に「わくわく」し、こどもたちのチャレンジを支えることを通して成長できる。（世代間交流）

③ 地域に「わくわく」がつながる！

- こどもたちを中心に、県内の企業、大学、アーティスト等と連携して、遊びを考え一緒に作る。（共創）
- 県内の自然、文化、産業、資源と遊びが結びつくことで、群馬ならではの遊び場が生まれる。（愛着）
- ここで生まれた遊びが屋外の公園や県内各地に届き、「わくわく」が好きな仲間が増える。（ネットワーク）

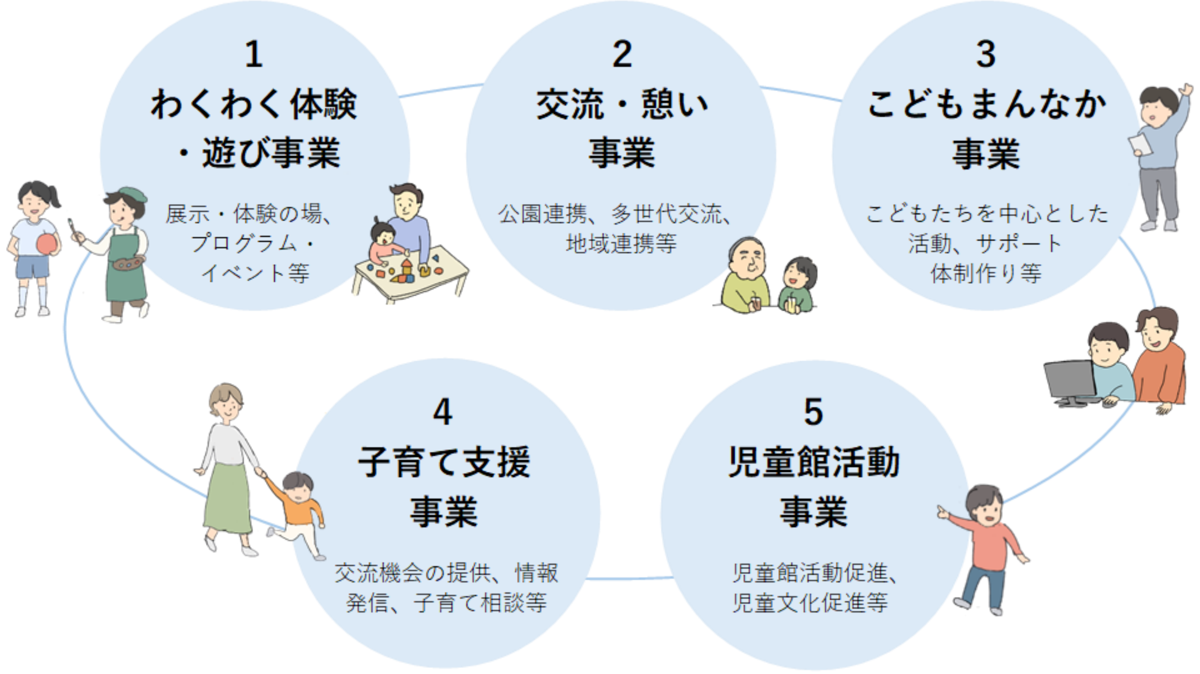
－ 居場所づくり ・ 仲間づくり ・ 未来づくり －

わくわくが大好きなこどもたちが 群馬の わくわくする未来をつくる！

3章　事業活動計画

＜事業活動の全体構成＞

こどもたち一人一人の興味･関心に応じた遊びや体験を提供することを目指し、次の5つの事業で構成する。



４章　展示・施設計画

基本的な考え方　（1）安全性の確保　（2）誰もが安心して過ごせる場の創造（ユニバーサルデザイン）　（3）こどもたちと一緒に成長できるフレキシブルな構成　（4）空間の境界を越えてつながる工夫

わんだーギャラリー　<知的好奇心を刺激し、発見と交流が生まれる遊びの回廊>

①わんだーアイテム

五感を使ってわくわくする遊びが楽しめる体験型展示を館内各所に配置。
アート、音楽、群馬の自然や文化、産業など多様なテーマの体験ができる。

チャレンジしながら何度も楽しめる

五感を使って遊べる

群馬にゆかりのある素材や物に触れられる

②ぽけっとライブラリー

テーマごとに配置された絵本や書籍を好きな場所で読める。

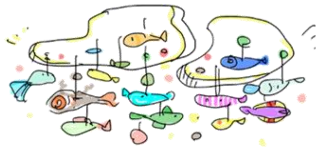
③ちゃれんじステーション

ジュニアスタッフのミーティング、利用者同士の交流などができる。

④みんなのギャラリー

こどもたちが作品やアイデアを発表できる。

こどもたちが意見やアイデアを投稿できる


ものづくりスタジオなどで作った作品を展示する

⑤わくわくプロジェクト

遊び場や遊びの道具などを、こどもたち、ボランティア、県内の企業、大学、アーティスト等と一緒に作る。

オリジナルの遊び場や遊びの道具をみんなで作る

おあしすパーク　<こどもから大人まで、みんなでゆっくり楽しく過ごせる憩い・交流の場>

①こどものおあしす

群馬の自然や文化を感じられる楽しい雰囲気の中で、こどもたち（未就学児）が安全にのびのびと過ごせる。

こどもたちのわくわくする気持ちを引き出す遊びを用意

②みんなのおあしす

様々な利用者が気軽に訪れて、飲食や休憩をしながらゆっくり過ごすことができるオープンなラウンジ空間で、遊びを通した多世代交流も楽しめる。

- 飲食可能なフリーラウンジ
- ワゴンカフェ
- 遊びステージ
- 公園の自然ガイド
- ギャラリー　等

③ゆっくりおあしす

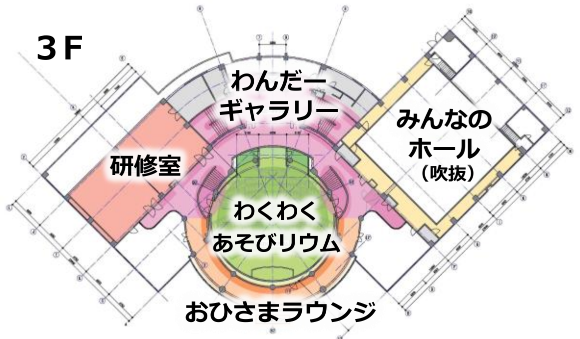
児童会館や公園の利用者向けのホスピタリティサービス機能を集約し、誰もが快適に過ごせる。

- 授乳室
- 幼児用トイレ
- 保健室
- おむつ替えコーナー
- バリアフリートイレ
- 子育て相談室　等

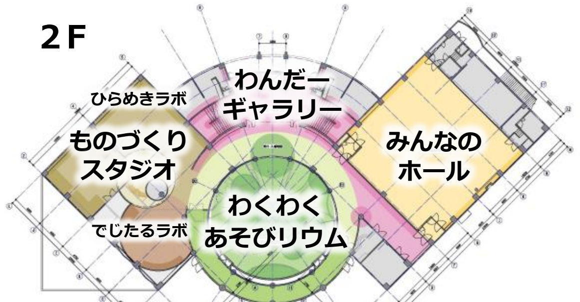
ぐんまこどもの国児童会館

＜各階の構成イメージ＞

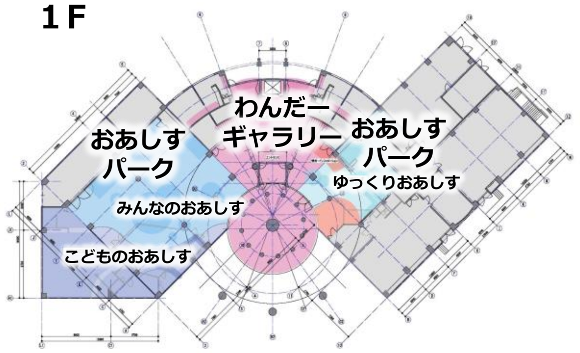
3Ｆ

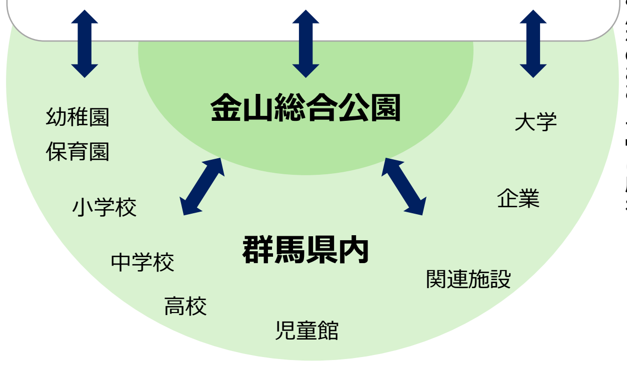


2Ｆ



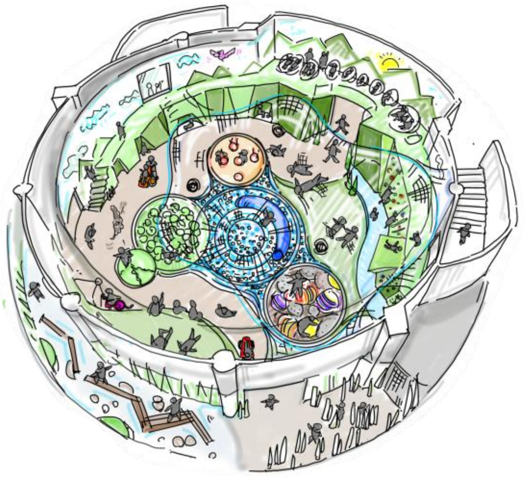
1Ｆ





わくわくあそびリウム　<いろいろな遊びが生まれる！いろいろな世界で遊べる！新たなシンボル空間>

大型遊具、こどもの好きな遊具、ドーム映像の組み合わせにより、身体を動かしてアクティブに遊ぶ、ゆったりくつろぐ、映像の世界に浸るなど、誰もが自分のペースで楽しむことができる。



①あそびタイム

～みんなでわくわく～

大型遊具で思いきり体を動かして遊ぶことができる。ドームは環境映像（宇宙、海、お花畑等）、照明、音響による演出を行い、ほかにはない遊び空間を創出する。

②鑑賞タイム

～ひとりでわくわく～

遊具やネットに座ったり、寝転がったりして映像を見ながら様々な世界の鑑賞体験ができる。

- 星空の投影番組
- 群馬の自然や公園の生物などの映像 等

③発表タイム

～みんなでわくわく～

ドーム空間を活用してオリジナル映像や作品の投影及び発表会などが楽しめる。

- ものづくりスタジオで作った作品の投影
- オリジナル制作映像　・映像コンテスト
- 発表会や特別イベント　等

作品を「わくわくあそびリウム」のドーム空間に投影

ものづくりスタジオ　<自分のわくわくをカタチにする創作の場>

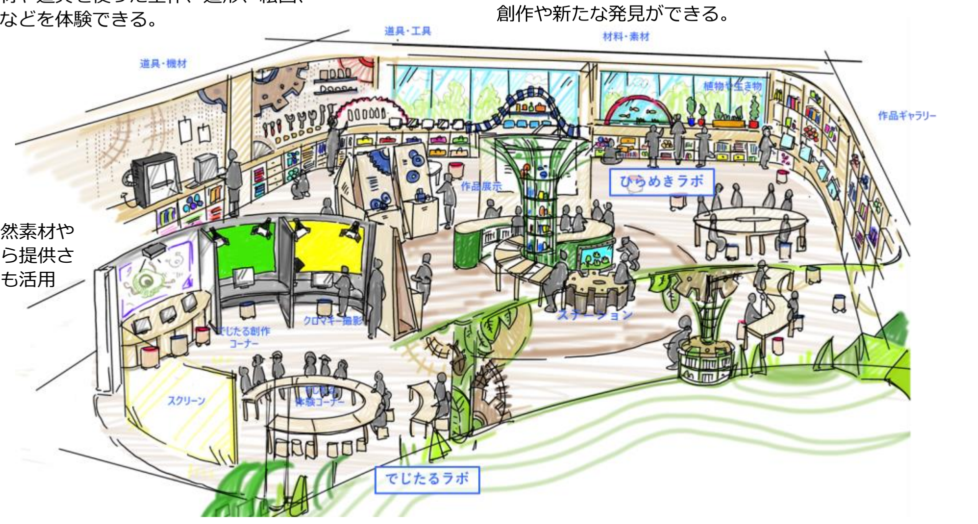
①ひらめきラボ

多様な素材や道具を使った工作、造形、絵画、科学実験などを体験できる。

②でじたるラボ

デジタルツールを表現や探究のための道具として活用し、創作や新たな発見ができる。

公園の自然素材や企業等から提供された素材も活用



２つのラボを一体的に構成し、中央のステーションを基点に、好きなプログラムを選んで体験できる。

県内の企業、大学、アーティスト等と連携したプログラム、ジュニアスタッフが企画・運営するプログラムなども行う。

作品を「わんだーギャラリー」や「みんなのおあしす」に展示

みんなのホール

発表会や講演会などのイベントや企画展などに幅広く活用する。映像を活用したイベントやスポーツに対応する機能の充実を図り、施設の貸出しも行う。

おひさまラウンジ

屋外の景色を見ながら休憩や飲食ができる憩いスペース。自然環境への興味や探究心を育む遊びやこどもたちの作品展示も計画する。

研修室

各種プログラムやイベント、セミナー等を行うほか、施設の貸出しも行う。

5章 プログラム計画

基本的な考え方　県内の関係機関との連携、ネットワーク作りなどにより、多彩なプログラムを実施するとともに、こどもたちの企画・運営によるプログラムを計画する。

こどもたちの企画・運営によるプログラム

こどもたちがプログラムの企画、準備、実施、評価の各段階に主体的に関わることができる機会を設ける。こどもたちからのアイデア募集、内容に応じたメンバーの募集など、興味に応じて参加できるような仕組みを検討する。

・ジュニアスタッフによるプログラムの実施
・中高生によるプログラムの実施　等

公園との連携によるプログラム

児童会館と公園の環境を一体的に活用し、五感と身体を使って楽しみながら、自然への興味や理解を深めることができるプログラムを実施する。

・自然観察プログラム　・公園をめぐる謎解きクエスト
・自然素材を使ったアートプログラム
・公園内施設や県内の関連施設との連携プログラム　等

保育園・幼稚園・小学校向けプログラム

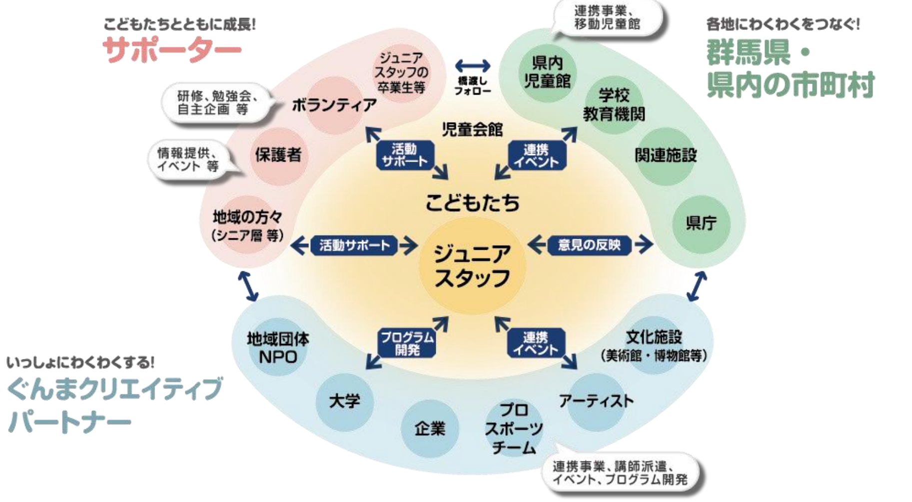
保育園、幼稚園、小学校などの団体利用に当たっては、現場のニーズを踏まえて柔軟にプログラムを提供する。一過性の利用にとどまらず、継続性・発展性のあるプログラムを設定することも検討する。

移動児童館

県内地域を巡回して様々な遊びを提供する。地域の児童館への図書や遊具の貸出、情報提供を行う。実施対象については、要望に応じて拡大することも検討する。

プログラム実施のためのネットワーク

こどもたちの活動を支える「サポーター」、「ぐんまクリエイティブパートナー」、「群馬県・県内の市町村」の三者が連携し、多様なプログラムの実施を実現するネットワーク構築を目指す。



地域の関係機関（ぐんまクリエイティブパートナー）との連携によるプログラム

大学等との連携

児童福祉、教育、アート、科学技術などの課程を持つ大学と連携し、最新の学術的知見に基づいた質の高い遊びや学びを提供する。

企業等との連携

企業が有する最新の技術、設備、サービス及び職業体験の機会を提供し、こどもたちの社会や産業への興味・関心を高める。

プロスポーツチームとの連携

選手とのふれあいやプロフェッショナルな指導を通じて、スポーツの楽しさ、チームワーク、目標に向かって努力する姿勢などを学べる機会を提供する。

アーティスト等との連携

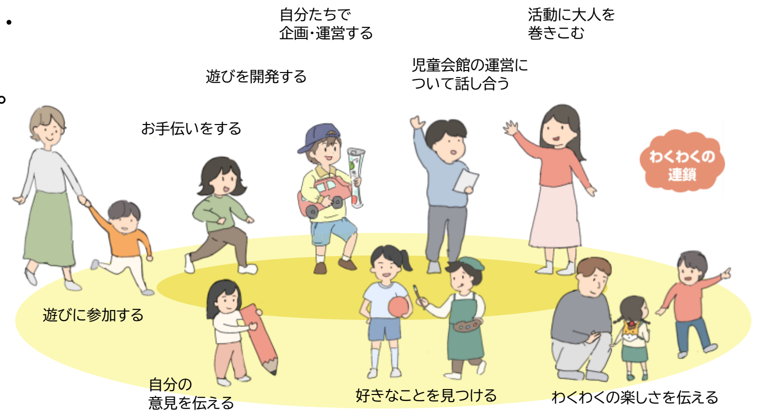
アーティストやクリエイターとの展示作り、作品作りを通じて、自由な発想や表現の楽しさを体験できる機会を提供し、創造力、自己表現力の醸成につなげる。

ジュニアスタッフの活動イメージ

イベントなどのサポートから自主的な企画・運営まで、こどもたち自身が興味や意欲に応じて主体的に参加できる機会を提供する。

【活動例】
・プログラム・イベントの実施
・テーマごとのグループ活動
　（各コーナーの遊びの検討、
　　こどもたちの体験サポート　等）
・情報発信・広報
・こどもの興味・関心に応じた研修　等

こどもたちのいろいろな参加のしかた



6章　管理運営計画

（1）管理運営の基本的な考え方

・利用者の安全確保に留意し、誰もが安心して快適に過ごすことができる施設運営を行う。
・利用者のニーズ把握、児童健全育成に関する情報収集などに努め、それらを踏まえた施設運営を行う。
・災害発生時には、大型児童館として、県内児童館、こどもの居場所・遊び場などに支援を行う。

（2）組織

・職員全員がこどもの権利を理解し、こどもたちの自主的な活動を組織的にサポートする体制作りを行う。
・「ぐんまクリエイティブパートナー」をはじめとする関係機関 との外部連携を円滑に推進する体制を強化する。

（3）開館形態

・現在の開館形態を基本として検討を行う。

開館時間　9：30～17：00
休館日　月曜日
　　　　（祝日の場合は翌日）

（4）利用料金

・施設の一部や体験プログラムの有料化、みんなのホールや研修室の貸出しなど、収益を得る仕組みの導入も検討していく。

7章　スケジュール

・令和８年度に基本設計・実施設計を行い、令和９年度からの工事開始を予定している。なお、工事期間中は休館とする見込みである。
・工期の詳細については、基本設計・実施設計により決定するが、１年半から２年程度を想定する。